

◇◇◇◆◇◆◇◆◇◇◇◇◆◆◆◆◆◇◇◇◇◆◇◆◆◇◇◇

FAMIC(ファミック)

独立行政法人 農林水産消費安全技術センター

FAMIC メールマガジン 第1130号 (一部抜粋)

◇◇◇◆◇◆◇◆◇◇◇◇◆◆◆◆◆◇◇◇◇◆◇◆◆◇◇◇

令和8年8月5日

~~~~~

5. ◇◇ 最近の話題・キーワード ◇◇

◆農薬の品質を守る分析化学者たち—CIPACの役割とFAMICの取り組み◆  
~~~~~

農作物を病害虫から守り、安定して栽培するために欠かせない、農薬。

農薬というと、「作物に残留しないか」「環境に影響がないか」といった安全性への懸念に注目が集まりますが、安全性の確保と並んで重要なのが、農薬そのものの品質の確保です。農薬は工業製品であり、製造時に品質のばらつきや不良品が生じる可能性があります。有効成分がラベル記載どおりの量含まれているか、不純物が混入していないか、散布の際に希釈水へ均一に混ざるかといった点は、農薬の効果や安全性に直接関わります。農薬メーカーは、国に申請し、登録された製造方法や品質規格に基づいて農薬を製造しますが、その規格どおりの品質が保たれているかの確認には、適切な品質検査法の確立が欠かせません。

農薬の品質検査の方法について国際的な合意形成を進めている組織が、国際農薬分析法協議会（CIPAC）です。CIPACは、新たに提案された分析法について国際共同試験を主催します。複数の国の検査機関が同じ試料を同じ分析法で測定し、年次会議での検討を経て、世界のどこで分析しても同様の結果が得られるか、すなわち再現性を確認します。再現性が認められた分析法は、国連食糧農業機関（FAO）の農薬国際規格の策定などにも利用されます。

FAMIC 農薬検査部は、CIPACの国際共同試験に参加する検査機関の一員で、年次会議に職員を派遣し、審議に加わっています。会議は、各国の公的機関で農薬品質管理に携わる分析化学者が集まり、各国の農薬事情や検査の取り組みについて情報共有する場でもあります。今年の会議は6月にタイ王国のクラブで開催され、FAMIC職員2名が参加しました。会議で議論された内容は各国に持ち帰られ、品質が粗悪な農薬の流通防止などに活用されています。

「適正に製造された農薬を、ラベルの記載事項を守って正しく使用すること」は、農薬の安全性を確保するうえで基本的な要件です。その前提となる「農薬の品質の確保」を支えるのが、FAMIC 農薬検査部も参加する、こうした国際的

な枠組みと検査機関の継続的な取り組みです。